

を信せしめるのである。

## 第六章 編誌總觀

### 第一節 總說

社會政策の推進、殊に勞資問題の解決に、廿七年間の苦闘を續け、日本を以て近代國家たらしめるに必要以社會的條件の育成を企圖して來た協調會は、終戦後内外の諸情勢に顧みず解散を至上の途として擇み、資産一切を擧げて新生の団体（中央勞働學園）に委譲することにした。その経緯の真相は後節に細叙するであらうが、その動機を為したるものは、昭和廿一年六月九、十、日からの懇談であつた。その要旨は、協調會の成立及び性格は資本家的且つ國家主義的であつて、勞働運動に同調せ